

浜松市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

※2021年度の達成状況は文部科学省の「英語教育実施状況調査」により把握。

※目標値は、別紙「目標管理書」による。

① CAN-DO リスト形式による学習到達目標の整備状況(設定・公表及び達成状況の把握等の状況)

<中学校>

【2021年度の現状】	当初の目標値	設定 100%	公表 20%	達成状況の把握 50%
	達成値	設定 100%	公表 27%	達成状況の把握 63%
【2022年度の目標値】		設定 100%	公表 30%	達成状況の把握 70%

<小学校>

【2021年度の現状】	当初の目標値	設定 20%	公表 10%	達成状況の把握 10%
	達成値	設定 43%	公表 1%	達成状況の把握 40%
【2022年度の目標値】		設定 50%	公表 10%	達成状況の把握 50%

<現状から捉えた課題>

- ・小中学校共に、2021年度の目標値は概ね達成しているものの、公表値が低いことから、設定した学習到達目標を児童生徒に示したり、ワークシートや一覧表で配布したりして、共有することに課題が見られる。

<方策>

- ・研修会においてCAN-DOリストの有用性を伝えるとともに、児童生徒との共有の仕方や達成状況の把握の仕方など活用方法の実践例を提示し、教員の意識を高める。

② 生徒の授業における英語による言語活動時間の占める割合(中学校)

【2021年度の現状】	当初の目標値	87%
	達成値	77%
【2022年度の目標値】		88%

<現状から捉えた課題>

- ・単元等で付けたい力を育成するために、適切な言語活動を設定することに課題が見られる。

<方策>

- ・「言語活動を通して資質・能力を育成する」ことの重要性を各研修会で重点的に周知するとともに、教員の実践意欲が高まるよう、言語活動の取組事例を紹介する。

③ パフォーマンステストの実施状況(中学校)

【2021年度の現状】	当初の目標値	スピーキングテスト 4回	ライティングテスト 4回
	達成値	スピーキングテスト 3回	ライティングテスト 2回
【2022年度の目標値】		スピーキングテスト 4回	ライティングテスト 3回

<現状から捉えた課題>

- ・パフォーマンステストの具体的な内容や評価の仕方について、難しさを感じている教員が多い。

<方策>

- ・各研修会において、パフォーマンステストの実施方法や内容、評価の仕方について説明する。
- ・パフォーマンステストの具体的な実践例を紹介する。

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況（中学校）

1 単位時間のうち、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

【2021 年度の現状】 当初の目標値 87%
達成値 80%

【2022 年度の目標値】 88%

《現状から捉えた課題》

- ・授業において日本語を多用している英語担当教員がおり、学習指導要領で重視された「授業は英語で行うことを基本とする」ことについての理解や必要性が高まっていない。

《方策》

- ・教師の英語による発話の割合を高めることが、生徒の資質・能力の育成に寄与するため、「授業は英語で行うことを基本とする」ことを改めて周知する。
- ・指定教育研究校や訪問校での実践例を研修会で紹介し、教員の英語使用への意識を高める。

⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合（中学校）

【2021 年度の現状】 当初の目標値 39%
達成値 46%

【2022 年度の目標値】 50%

《現状から捉えた課題》

- ・達成値が目標値を大きく上回ったため、求められる英語力を有する英語担当教員の割合を昨年度までに設定したものより上方修正する。

《方策》

- ・各研修会において現状や国の数値目標を提示することにより、外部検定試験による資格取得や英語担当教員の専門性を高める必要性について周知する。
- ・教員採用試験において実施している有資格者への加点制度を継続していく。

⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合（中学校 第3学年）

【2021 年度の現状】 当初の目標値 45%
達成値 41%

【2022 年度の目標値】 50%

《現状から捉えた課題》

- ・外部試験を受けることにより、技能別の力を客観的に把握し、学習改善や英語運用能力の向上に役立てることができるという外部試験の有用性に、生徒や教員が気付くことができていない。

《方策》

- ・各研修会において、外部試験の有用性を伝え、英語運用能力に関する外部試験への関心を高める。
- ・英語力向上事業において、中学校でモデル校を選定して外部試験を行った後、全校対象の悉皆研修を行い、生徒の英語力と教員の指導力向上に役立てる。

★ 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合（小学校英語専科加配に係る）

2022 年度採用予定者（目標値） 26%（25 人） （達成値） 10.5%（10 人）

2023 年度採用予定者（目標値） 37%（35 人）

2024 年度採用予定者（目標値） 42%（40 人）

2025 年度採用予定者（目標値） 50%（45 人）

《現状から捉えた課題》

- ・小学校の採用選考試験を受ける者の中で、中学校・高等学校の英語免許状取得者が少ない。

《方策》

- ・採用選考試験においては、以下の英語資格を有する者に、2段階で加点を行い、小学校受験希望者が英語力の必要性を実感できるようにする。

＜第1段階＞中学校英語免許状、英語検定2級、TOEFLiBT 60点以上、TOEIC 600点以上

＜第2段階＞英語検定準1級、TOEFLiBT 72点以上、TOEIC 785点以上

(3) 研修の体系と内容の具体

【研修】

1. 中学校外国語研修
2. 小学校外国語研修
3. 小学校外国語授業づくり研修Ⅰ・Ⅱ
4. 指定教育研究校における校内研修指導
5. 教職員向け授業改善資料「はままつの教育」の作成、学校訪問での指導・助言及び経験研修での活用
6. 外部試験を活用した授業改善研修
7. 浜松市教育研究会（外国語科部会）と連携した研修
8. ALT（外国語指導助手）の資質・能力の向上に係る研修
9. 初任者研修
10. 2年目研修
11. 研究員研修
12. 第15期教師塾
13. スーパーティーチャーによる公開授業及び講義

1～13の研修内容の詳細は以下に記す。

1. 中学校外国語研修【浜松市教育センター】
講師 山田 誠志 調査官
新学習指導要領完全実施を踏まえ、各校・各自の外国語の指導や、評価の在り方について振り返り、外国語指導者としての力量を高める。
2. 小学校外国語研修【浜松市教育センター】
講師 直山 木綿子 視学官
新学習指導要領を踏まえた各校・各自の外国語教育の取組や、外国語活動及び外国語科の授業を振り返り、指導と評価の在り方を見直すことを通して、外国語指導者としての力量を高める。
3. 小学校外国語授業づくり研修Ⅰ・Ⅱ【浜松市教育センター】
小学校外国語教育の授業づくり研修の一環として、年2回、希望者を対象に実施する。各回の内容は以下の通りである。
 - ①小学校外国語授業づくり研修Ⅰ 「ALT等外部人材の活用」
 - ・小学校教員対象
 - ・ALT派遣業者トレーナーを招き、外国語活動におけるALT等外部人材の効果的な活用の仕方を学び、指導力向上を図る。
 - ②小学校外国語授業づくり研修Ⅱ 「外国語科授業づくり」
 - ・小学校・中学校教員対象
 - ・新学習指導要領の理解を深めるとともに、高学年外国語科の授業づくりについて学ぶ。

4. 指定教育研究校における校内研修指導【浜松市教育委員会指導課】

小中学校の指定教育研究校において、新学習指導要領に基づく各教科等の充実に関する研究を進めている。指定教育研究校において外国語科の校内研修に参加し、外国語の指導及び評価の在り方について指導・助言をする。

5. 教職員向け授業改善資料「はままつの教育」の作成、学校訪問での指導・助言及び経年研修での活用【浜松市教育委員会指導課・浜松市教育センター】

浜松市では、授業改善を推進し、児童生徒の資質・能力を確実に育成するため、毎年、教職員向け授業改善資料「はままつの教育」を発行している。2019年度は新学習指導要領についての理論編として、他教科とともに、外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力、見方・考え方、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等について説明した。2020年度は実践編として、「深い学び」の実現に向けた授業改善の具体や学習評価についてまとめた。2021年度は学習評価編として、目標と指導と評価を一体のものとして捉えようとして、指導改善を進めていくことについて説明した。これまでの3年間は学習指導要領のポイント、理論編、実践編、学習評価編として示してきたが、2022年度は活用編として、「目標の明確化」「指導の充実」「評価を生かす」の三つの視点から、資質・能力を育成するための授業改善の方法を示している。左ページの授業改善のポイントを見ながら、右ページに実際に書き込みができるようになっており、各所に二次元コードを配置することで、2019年度、2020年度、2021年度の「はままつの教育」の関連ページ等を確認できるようになっている。

また、毎年、各教科等の指導主事が浜松市内の小中学校及び高等学校への学校訪問を行っている。2022年度も、「はままつの教育」を基に、授業改善を推進するための視点について指導・助言を行う。外国語担当指導主事が訪問をする学校では、参観した外国語活動や外国語科の授業を基に、資質・能力を育成するための授業改善について重点的に指導・助言を行う。

さらに、2022年度からは「はままつの教育」を浜松市教育センターが行う経年研修でも活用し、授業改善に向けてより一貫した研修を実施していく。

6. 外部試験を活用した授業改善研修【浜松市教育委員会指導課】

モデル校 中学校2校 実施学年2年・3年（9月に各校で実施）

授業改善研修会（全校悉皆） 小学校 2月開催

中学校 12月開催

学習指導要領において4技能のバランスのとれた育成が求められたことから、外部試験を導入し、モデル校において実施することで、数的根拠を伴う客観的な成果とその検証を行う。モデル校は規模や地域性、中核教員などを考慮して選定する。

外部試験実施後は、全校悉皆の研修を行い、浜松市の生徒の英語運用能力の傾向や、身に付けるべき資質・能力、授業改善の方向性について説明する。また、顕著な成果が見られたモデル校がどのような取組を行っているかを紹介したり、現在抱えている指導上の課題や今後の授業改善についてグループ協議を行ったりする。

2022年度は小学校での実施ができないものの、中学校の結果を踏まえた全校悉皆の研修を行い、小学校で身に付けるべき力やよりよい小中接続のあり方について考える。

7. 浜松市教育研究会（外国語科部会）と連携した研修

【浜松市教育研究会（外国語科部会）・浜松市教育委員会指導課】

4月に行われる浜松市教育研究会の外国語部主任者会において、指導課の指導主事が講師となり、外国語教育の動向や外国語教育推進に係る情報等を伝達する。

外国語教育に関わる教員が一堂に会する第1回浜松市教育研究会では、指導課指導主事が、言語活動例や目標と指導と評価の一体化について講義をする。

8. ALT (外国語指導助手) の資質・能力の向上に係る研修

浜松市教育委員会では、生きた英語力育成事業として、60名のALTを配置している。ALTを対象とした、以下の研修を実施する。

①月例研修【浜松市教育委員会指導課】

JETプログラムALTを対象に、毎月1回指導課が研修を実施する。互いの授業実践を紹介したり、ALT派遣業者のトレーナーによる講義を行ったりして、ALTの指導力向上を図る。

②静岡県主催の外国語指導講師の指導力向上研修**【静岡県教育委員会・静岡市教育委員会・浜松市教育委員会指導課】**

浜松市から、JETプログラムALT全員と日本人英語担当教員が2日間参加する。ALTと日本人英語担当教員が協働して研修に取り組むことにより、各学校における効果的な外国語の指導に必要な知識や指導技術等を習得する。

9. 初任者研修【浜松市教育センター】

全15回行われる研修のうち、中学校英語科教員、小学校外国語を選択した教員を対象に、外国語活動・外国語科の教科指導等について学ぶ機会を5回設定する。詳細は以下の通りである。

- ①発問、指示、板書等の授業における基礎的な指導技術
- ②小・中学校の先導的な授業参観・研究協議
- ③授業づくりの基本、指導案検討(指導案の書き方、単元及び単位時間の授業構想)
- ④授業構想、指導技術(模擬授業、代表授業指導案事前検討)
- ⑤初任者代表授業参観・授業実践グループワーク

10. 2年目研修【浜松市教育センター及び浜松市教育委員会指導課】

全6回行われる研修のうち、中学校英語科教員、小学校の外国語を選択した教員を対象に、外国語活動・外国語科の研修を2回実施する。詳細は以下の通りである。

- ①新学習指導要領の理解、外国語活動・外国語科で身に付けるべき資質・能力を明確にしたうえで授業づくりの具体。(6月)
- ②外国語活動・外国語科単元構想について学び、実際に単元計画を立てる。(11月)

11. 研究員研修【浜松市教育センター】

外国語教育研究員数：6名程度 研究期間：2年間

外国語活動・外国語科の授業に関連した実践的なテーマを掲げ、個人で研究を進め、論文等にまとめる。毎年2月に開催される発表会や論文の配布等を通して、浜松市全体に実践を広める。

12. 第15期教師塾【浜松市教育センター】

対象となる経験5年目程度の若手教員の中に英語科教員がいた場合、経験豊かで指導力のある師範教員の下で、授業研究及び協議を重ね、確かな指導技術を身に付ける。発表会では、その成果を報告し、浜松市全体に実践を広める。

13. スーパーティーチャーによる公開授業及び講義【浜松市教育センター】

浜松市優秀教員に選ばれた教員の中に英語科教員がいた場合、若手・中堅教員がその授業を参観したり、講話を聞いたりすることを通して、日常の指導において大切にすべきことや、児童生徒の指導・支援の仕方について学ぶ。

(3) 研修体制の概要



